

PTA

やまがた

第42号

平成30年3月発行

・編集発行・

山形県PTA連合会

会長 鈴木 真一

山形市十日町1丁目6番6号

県保健福祉センター内

TEL 023(631)0055 FAX 023(635)4359

・印刷所・

中央印刷株式会社

山形市銅町1-1-5 TEL 023(631)5533



県P連活動スローガン

『“ありがとう”感謝と思いやりがあふれる
環境を創造するPTA』

～親の思いが子どもを伸ばす 成長しよう子どもと共に～

「ありがとう」感謝と思いやりが あふれる環境を創造するPTA

親の思いが子どもを伸ばす

成長しよう子どもと共に

山形県PTA連合会会長 鈴木真一



本

会の運営・活動に対し、常日頃から温かいご支援、ご協力をいただき感謝申し上げます。また、それぞれの郡・市PTA、そして各学校、地域社会において子どもたちの健全育成のためにご尽力をいただき重ねて御礼申し上げますとともに敬意を表します。

会長という重責を担うことになってから一年間が経とうとしています。月日の流れの速さを改めて感じています。今年度は標記のスローガンのもと様々な活動を展開して参りました。特に「ありがとうボックス」の推進に努めました。人権教

育にもつながるこの活動は、今後も草の根のように少しずつでも広がっていくことを願っています。また、私たちが最も大切にしている研修活動の集大成として開催した研修大会新庄・最上大会や、山形県教育委員会、山形県高等学校PTA連合会との合同教育懇談会など、会員の皆様のご協力に支えられ充実した学びの場となりました。昨今の子どもたちを取り巻く環境の変化は、私たちが保護者が思っている以上に大きく、さらに加速しています。私たちはPTA組織を活用し、その活動をますます活性化させ、「教育の基盤は家庭にある」ことを、そして、家庭・学校・地域を結ぶ架け橋としての役割と責務の重要性を自覚し、子どもたちの健全育成のための活動を継続していくことが重要であると思います。さて、平成二十九年三月に公示された新学習指導要領は、小学校は平成三十二年度、中学校は平成三十三年

年度からの全面实施に向け、来年度から移行期間に入りいよいよ本格的に動き出します。これまでの学校教育実績や蓄積を活かし、子どもたちが未来を切り拓くための資質・能力を一層確実に育成することや、道徳教育の充実や体験活動の重視、体育・健康に関する指導を充実させ豊かな心や健やかな体を育成することを基本としています。あわせて第六次山形県教育振興計画は「人間力に満ちあふれ 山形の未来をひらく人づくり」を基本目標として進められています。すべては子どもたちの未来のためのものです。PTAとして必要なことは、親として目標を持ちいきいきと生活し、様々な価値観に触れ、その違いを認め合い、より健全な価値判断で自分を磨いていくことだと思えます。そうすることが必ず子どもたちの健全育成に繋がるものと思えます。

山形県PTA連合会は平成三十年度に七十周年の節目を迎えます。昭和二十四年二月に結成されて以来、子どもたちを取り巻く環境や社会情勢は大きく変化しているはずですが、子どもたちを思う親の気持ちは変わることなく受け継がれています。受け継がれてきた思い、そしてこれから受け継いでいく思いを確かめる機

会になるのではないのでしょうか。さらに、今後の大きな事業として、平成三十一年度には日本PTA東北ブロック研究大会南陽・東置賜大会が開催され、平成三十四年度には日本PTA全国研究大会山形大会の開催が決定しています。山形県PTAとしての活動をますます活性化させ、この二つの大きな研究大会を成功に導き、PTAのあり方や存在意義を確かなものにしていきましょう。

最後に、山形県教育委員会をはじめ関係各位の皆様からの温かいご支援、ご協力に感謝申し上げます。つと致します。



子どもたちの健全な育成を願って



山形大学附属中学校
校長

渡邊 裕美

「ありがとうございます。感謝とおもいやりがあふれる環境を創造するPTA」のスローガンのもとに今年度も様々な活動が実践されました。特徴的なものとしては、子どもたちの健全育成と様々な環境から子どもたちを守っていくことをねらいとして、「山形方式ネットモラル講習会」の実施、新小学一年生に「ルール守ってける」シールの配布、人権教育「ありがとうボックス事業」の実施などが挙げられます。どの活動も山形県の教育の根幹である「いのちの教育」に関わる重要な活動です。

さて、その中でもSNSの問題は、喫緊の生徒指導上の問題としても取り上げられる問題でもあり、小・中・高のいずれの校種においても学校・保護者・地域が一体となって、青少年の健全な育成を支えていかなければなりません。

本校でも、夏休み前に生徒と

保護者を対象にした研修会を実施しました。PTA研修会では、「子どもたちをネットトラブルから守るために大人は何を教えるか」という演題で、ウィルス感染、情報流出、ネットいじめ、チーンメール、フィッシング詐欺、ワンクリック詐欺等具体的な事例を提示し、その対処の仕方を学びました。また、情報モラルや使用時の約束事も必要だと再確認しました。

こうした取組が各学校に止まらず、地域や各市町村全体で取り組まれてきており、その裾野の広がりを感じられます。

ネットトラブルから子どもたちを守るのは、私たち大人です。県PTA連合会での助成も継続していただきながら、「山形方式ネットモラル講習会」をもっともつと広めていくことが危機意識を高め、様々なネットトラブルから子どもを守ることに繋がるのではないのでしょうか。



山形県PTA研修大会新庄・最上大会を終えて



実行委員長

涌井 洋一

去る平成二十九年十月二十一日、多くのご来賓と、県内各地より九百四十名ものPTA会員の皆様にお集まりいただき、「ふれあい 学び合い いのち輝く子どもの育成」の大会主題のもと、第六十九回山形県PTA研修大会新庄・最上大会を盛大に開催することができましたこと、実行委員会を代表しまして改めて御礼申し上げます。本大会を開催するにあたり、実行委員会の皆様方には、昨年度から一年以上の長きに渡り着々と準備を重ね、前日準備、当日の運営、翌日の後片付け、記録集の編集と最後までご尽力をいただきました。また、県PTA連合会役員・事務局の皆様からもご協力をいただき、全員の力の結集無くしてこの大会の成功は成しえませんでした。本当にお疲れ様でした。

ご参加の皆様にお寄せいただいたアンケートを集計させてい

ただきました。多くの皆様から高い評価をいただき、大変喜ばしく思っています。各分科会では、活発な意見交換が行われ、皆様抱える課題や、将来への展望について多くの学び、気づきを得る機会とすることができたものと思います。また記念講演につきましては、皆様から本当に素晴らしい評価を頂戴することができました。一部二部に分け、二部はご夫婦での対談という新しい試みではありましたが、仕事や子育てにかける関根ご夫妻の情熱、逆境をはねのけるパワー、そして何より家族を愛する優しさが、お聞きいただいた皆様の心にも伝播したのではないかと思います。手前味噌ではありますが、本当に素晴らしい講演でした。

このような大きな大会を開催させていただき、新庄・最上PTAの団結を、より一層深めることができたのではないかと実感しています。この成果を、私たちのこれからの活動にも大いに役立ててまいります。本当にありがとうございます。

山形県PTA母親委員会の活動報告



山形県PTA母親委員長
堀田 理恵

山形県PTA母親委員会の活動を皆様に支えていただき展開できましたこと、心より感謝申し上げます。また、各郡・市PTAの母親委員会におかれましても活発に活動していただきありがとうございます。今年度は、「改めて考える家庭教育のあり方」についてや「犯罪やトラブルに巻き込まれないために身につける情報モラル」について、また、「親学」家庭教育視察研修では「絵本に出てくる料理を再現した給食」について学ばせていただきました。親と子が一緒に考え取り組むことや絵本を通して同じ時間を過ごし語り合う事など、どの研修から母親の時間が必要であり大切だと感じました。今後もすべての子どもたちが笑顔で心身共に健やかに成長す

る事が出来るように、山形県の子どもたちを見守りたいと思います。今年度も、学びの多い一年になりましたが、子どもの手本となる私たち大人はまだまだ学び続ける必要があります。情報社会の発達、人間関係の希薄化等、子育て環境は時代とともに変化していきますが、子どもたちのより良い未来のために今後も母親同士のネットワークを大切に、家庭教育力の向上に努めていきたいと思えます。

各地区の活動報告

《山形市》

- ・ 定例母親委員会 三回（活動方針・情報交換・研修等）
- ・ 研修「成長に必要な食事と栄養について」
講師：山口美香氏（野菜ソムリエ上級プロ）
- ・ 「親学」家庭教育視察研修
（遊佐小学校視察）
- ・ 拡大母親委員会一回
講演「情報モラルと情報セキュリティ教室」
講師：石田淳一氏
（独立行政法人情報処理推進機構セキュリティセンター普及グループ主幹）
- ・ 「マザーズねっとわーく」No.22 発行
- ・ 《**上山市**》
- ・ 母親委員会 二回
研修会 一回
講演「「手洗いを直そう」
「感染症からのちを守る」
講師：宇野毅氏 氏
（ケミカル産業㈱ハイジエニックス事業部長兼開発担当部長）

《天童・東村山地区》

- ・ 母親委員会総会
- ・ 母の集い（意見交換会）
- ・ 「母親委員会だより」発行

《西村山》

- ・ 定例母親委員会 二回（協議・研修）
- ・ 研修「「操体法」で気持ちよく体のバランスを整えよう」
講師：最上隆俊氏
（からだメンテナンス・エムズ院長）
- ・ 代表委員会 三回（企画運営）

《北村山地区》

- ・ 四月 顔合わせ会
- ・ 平成三十年三月報告会

※村山市P・大石田町P・尾花沢市Pに
おいては母親委員会活動あり。

《最上地区》

- ・ 地区母親委員会全員研修会 一回
研修「「学力・体力・気力の向上は生活習慣の立て直しから」
一流スポーツ選手・タレント
東大生に学ぶ生活の法則」
講師：小澤治夫氏（静岡産業大学経営学部経営学科教授）
- ・ 代表母親委員会研修・情報交換会 二回
- ・ 「母親委員会だより」二月発行

《米沢市》

- ・ 定例母親委員会四回
（情報交換・講演会・研修会・総会）
- ・ 講演「「命の尊さ大切さ」
講師：後藤敬子氏
（酒田市立八幡病院看護師）

《東置賜地区》

- ・ 地区P代表母親委員一名が県PTA母親委員会に出席しています。

《西置賜地区》

- ・ 定例母親委員会一回
- ・ 母親委員会だより発行
- ・ 地区P交流会参加協力

《鶴岡市》

- ・ 母親委員会 二回
（活動方針 情報交換 研修会）
- ・ 講演「「今、必要な家庭教育のあり方」
講師：本間俊美氏
（県家庭教育アドバイザー）
- ・ 見学 荘銀タクト鶴岡
グループ会議三回
（活動／運営方針、研修会企画、情報交換）
- ・ 「母親委員会だより」発行

《東田川郡》

- ・ 定例母親委員会一回
- ・ 活動報告
- ・ 情報交換等

《酒田飽海》

- ・ 母親委員長等会議 二回（活動方針・情報交換・講演会）
- ・ 講演「「読書で開ける子どもの未来」
講師：加藤美穂子氏
（子どもの読書サポーターアシード代表理事・絵本専門家）
- ・ 酒田飽海PTA研修大会への協力



“親学”家庭教育視察研修
杉並区立久我山小学校

「郷土愛の育成に向けたPTAの役割」

～人間力に満ちあふれ、
山形の未来をひらく人づくりをめざして～

平成27年5月より「つなぐ」～いのち、学び、地域～をテーマとして「人間力に満ちあふれ、山形の未来をひらく人づくり」を基本目標とする第6次山形県教育振興計画がスタートし、生まれ育った郷土を愛し、地域で活躍し、未来をきりひらいていく人材の育成が求められている。

学校教育は、国家・社会の形成者として必要な資質を養うことを目標の一つとしており、地域コミュニティの一員として、地域に積極的に参画し続ける人の育成もそれに沿ったものである。またPTAのめざす子どもたちの姿つまり次代を担う人材の育成ともリンクするものであり、今後のPTA活動の大きな柱の一つでもある。「郷土愛」は、子どもたちが学校・家庭・地域における成長過程の中で育まれるものであり、積極的・意識的に地域の人・もの・自然・文化・歴史・産業等に関わる中で育まれるものである。

「自然と文明が調和した理想郷山形」を実現していく人材を育成するために学校・家庭・地域が緊密に連携して何ができるかを考えたい。

（話題提供） 県教育委員会 総務課企画調整専門員 樋口 純一 氏
「郷土愛の育成に向けた山形県教育委員会の取り組み」

I 今、なぜ「郷土愛の育成」か？

- ・少子高齢化を伴う人口減少 ・グローバル化等の進展→自分自身の「根っこ」「心の拠りどころ」が必要。
- ・人口流出による地域コミュニティの変化
→地域コミュニティの存立への危惧～自分たちの生まれ育った「ふるさと」がなくなってしまう！～

II 郷土愛育成の位置付け ～「大綱」と「6教振」～

- ・地域とつながる人
地域の一人 人々との関わり 地域に参画 → 地域の未来をきりひらく人
郷土を愛し どこにいても 郷土が心の支え → 地域とつながり続ける人
- ・6教振の基本目標 「人間力に満ちあふれ、山形の未来をひらく人づくり」
目指す人間像 広い視野と高い志を持って 「いのち」をつなぐ人 学び続ける人 地域とつながる人

III 郷土愛に係る本県の児童生徒の意識

- ・児童生徒の自尊感情 他人を思いやる意識 地域活動参加への意識 社会への関心 ⇒ 高い

IV 郷土愛を育成するための取り組み

- ・郷土愛を育む教育の推進
学校における「郷土・山形」を学ぶ授業 地域に根ざし、地域と連携した学習活動
山形県民の歌「最上川」、スポーツ県歌「月山の雪」の普及
活力あるコミュニティ形成→ジュニアリーダークラス活動 地域青少年ボランティア活動 社会教育施設の機能強化
学校・家庭・地域の連携協働の推進→学校支援、学習・体験活動支援 地域行事への参画支援 家庭教育支援
新たなコミュニティスクールの推進→地域とともにある学校づくり 学校を核とした地域づくり
郷土愛の育成は 子どもたち一人一人の「心の拠りどころ」を育むもの
いつでも どこにいても 郷土山形を大切に思う気持ちを 私たち大人が伝えていくこと…

視点1：子どもたちが地域コミュニティの一員として地域の人・もの・自然・文化・歴史・産業等に関わることができる有効な手段や場面、方法を考える。地域社会の中で関わらせたい人・もの・自然・文化・歴史・産業等。

【学校で・家庭で】

- ・紅花を栽培し紅花染めをする、蚕を飼い繭でコサージュを作る等、学校と地域で地域文化や産業を学び活動する。
- ・親子で植林をしながら防風林の役目を学ぶ。
- ・花笠など地域の祭りに参加により郷土史を知る。

視点2：郷土愛を持ち、人間力に満ちあふれ、山形の未来をきりひらく人材の育成に向けてPTAのできることを考える。PTA活動としてできることを模索する。

- ・地域を巻き込み活動に取り組む体制作りをする。
- ・除雪ボランティアを行い地域の方とコミュニケーションを取る。
- ・地域の祭りへの参加、祭り後のゴミ拾いボランティアなどで地域愛を育む。
- ・親の意識を上げ山形ファン作りをする。等

まとめ

親が地域の良さを知り、機会ある毎に子どもに伝えることが最も大切なことであり、この機会を作ることがPTAとして重要なことではないか。学校・地域と連携し、親子で参加・体験することで郷土愛に基づく心を育んでいきたい。

文責 山形県PTA連合会理事 佐竹直子



親子で読書 深める絆



～本を読む子は かならず伸びる～

山形県PTA連合会では、親子読書をととして生涯学習を進め、親子で学び、親子でコミュニケーションを活性化することにより、親子の絆が一層深まり、子どもの心が豊かになることを願い、運動を推進しています。

親子読書・地域の活動

PTA全員で取り組む

親子読書活動

天童市立山口小学校

PTA会長 後藤 大輔

本校では、四年前に子どもたちと一緒に図書館の大改造に取り組んだことをきっかけに読書活動にさらに力を入れて取り組んでいます。

三年前からPTAでも読書活動に積極的に取り組もうと活動の重点の一つにしました。それまで重点にしていたメディアコントロールと併せて「読書の時間を確保してメディアタイムを減らしていく運動」と名付け取り組んでいます。

具体的な活動の一つとして県PTA連合会で取り組んでくださっている「親子読書」に夏休みにPTA全員で取り組むことにしました。今年度は、親子で感想を書いたものを各クラスの廊下に貼り出し、九月のいのちの授業参観の日に互いに見合う機会を設定してみました。それぞれ



れの家庭で取り組んでいる様子がよく分かり改めて読書の大切さを感じることができました。

子どもたちは、毎日のように学校から本を借りてきて二十分以上読書をするようにしています。地区の読み聞かせボランティアの方々も定期的に活動して下さっています。

このような取り組みが認められ、今年、「読書活動優良実践校」として文部科学大臣表彰をいただくことができました。

これをきっかけとして、心を耕す読書活動を家庭でも大切にしていくことを確認したところです。

小中連携し、中学生が

自ら取り組む読み聞かせ

南陽市立宮内中学校PTA

良い本は、何回読んでも新たな発見があります。人の心のひだに触れる本、社会性を養う本、自然の豊かさやすばらしさに触れる本。読書は、人生を豊かにします。本地区では、宮内中学校区の各小学校で、親子読書や読み聞かせの活動が盛んで、地域の方の協力を得ながら、親子読書の取り組みを進めてまいりました。

そこでつけた力を生かして、中学生になると、読み聞かせをする立場になる力の育成に努めております。

上級生が下級生に読み聞かせをしたり、

小学校で語り部として力をつけてきた生徒が、同級生や下級生に語りを聞かせたりして、読み聞かせをする力を伸ばしてまいりました。

その力は、避難訓練でも生かされております。本校では、水害を

想定した避難訓練を双葉保育園と合同で実施しております。本校に避難してきた園児たちの不安を和らげたり、何かあったら中学校に避難すればという安心感を持たせるために、避難してきた三〇〇名ほどの園児に中学生が読み聞かせをしております。中学生も一市民として自ら豊かな生き方ができるよう、小学校でつけてもらった力を、中学校でも伸ばしていけるような読み聞かせや読書活動を推進してまいります。



中学生が中学生の行う読み聞かせ



中学生が園児に行う読み聞かせ

親子読書で心ふれあうひとときを

酒田市立浜中小学校PTA

本校では、毎年、各学年PTAで親子読書に取り組んでいます。親が子どもに本を読んで聞かせる、子どもが親に本を読んで聞かせる、親子で読んだ本について感想を交流するなど取り組み方は様々ですが、ここでは、今年度の一年生の取り組みを紹介します。

・6月の詩「いろはろうた」
 音読「けむりのきしゃ」「すずめのくらし」など数冊のなつたところをおおきく覚えてもらおう！
 ※よんだぶんだけ〇にいろをぬろう

日	題	6月の詩	きょうかじょ	おうちのりから	せんせい
1	水	〇〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇〇	ずんばりきし	
29	水	〇〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇〇	かくししました	読書
30	金	〇〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇〇	ごめいやくがす	読書

6月の親子読書開催 18日(日) 読んだ本「クニタニ・アサキ」の感想
 感想を書いて、ハートに貼ってくださったママさんに、バツとよまに送りました。
 読んだ本のハートには必ず名前と学年・クラス・名前を書いておきましょう。

↑6月の音読カード

カードの一番下に、「親子読書感想欄」があります。

☆毎月の親子読み聞かせ

毎月第三日

曜日に家庭で読み聞かせを行い、音読カードにひとこ



↑夏休み親子読書カード

と感想を書いています。親子どちらが感想を書くかは自由で、学級通信で紹介してもらっています。

☆夏休みの親子読書

夏休みには、親子で感想を伝え合ったり話し合ったりして、ゆつくりと親子読書に取り組みました。「おうちの人の感想」を見ると、「主人公の気持ちを話し合った」「主人公のいねと話した」「自分の子どもたちみたいで心温まるいい絵本だった」など、子どもと一緒に豊かな時間を過ごしてくださったことがよく分かりました。たくさん感想カードが集まったので、学年全体で交流できる機会を考えていきたいと思います。

読書を通して親子のふれあいを

上市市立西郷第一小学校PTA

本校PTAは、活動の重点に読書の推奨を位置づけ、学校と連携しながら取り組みを行っています。

1 読み聞かせ

母親委員が中心になって、月に一回保護者が学校に出向き、朝読書の時間に読み聞かせを行っています。本校は小規模なので、上学年と下学年に分かれて実施します。また今年度の第一回目は、とんと昔話の会で

活躍している地域の方を語り手として招き、昔話を語っていただきました。子どもたちは毎回真剣な表情で話を聞き、聞いた後には必ず感想を発表してくれます。



2 アウトメディアに合わせた読書の推奨

PTAの取り組みとして春秋2回アウトメディアに取り組んでいます。秋の取り組みの時には、メディアを離れた時間を、親子読書に充てるよう呼びかけています。各家庭から「静かで温かな時間を過ごすことができました」などの感想が寄せられました。今後も継続して取り組んでいきたいと思っています。

子どもの心を育む親子読書

東根市立高崎小学校PTA

☆夏休み親子読書

「親子のコミュニケーションを支える本とのふれあい」をねらいとして、「夏休み親子読書」に取り



組んでいます。夏休みに親子で同じ本を読み、カードに感想(親も)を書きます。保護者の感想を紹介し

- ・同じ本でも親子の感じ方の違いに気づきました。
- ・子どもの頃と違って、おかあさんキツネの気持ちになって読みました。
- ・自分も小学生時代に読んだ本を子どもと一緒に読み当時は思い出しませんでした。三十年という年月を一瞬で飛び越える本のすばらしさを感じました。

☆親子読書に関する教育講演会

「地域ぐるみの本とのふれあい」をねらいとして、地域の様々な団体との共催で、「親子読み聞かせ・ポップづくり・ブックトーク」を行っていただきます。からだに関する本の読み聞かせを親子一緒に聞いたり、一緒にポップづくりを行ったりしました。子どもの喜ぶ姿に保護者も感動しました。



これからも、家庭、地域のあたたかい雰囲気の中で、読書を通して子どもたちの心が豊かに育まれることを願っています。

子どもとつながり 地域とつながるPTA

遊佐町立高瀬小学校PTA会長

阿部 勝志

一、はじめに

本校は、庄内平野の北部、秋田県境に近い遊佐町にある。明治七年に、常恩学校として開校された。今年一四四年を迎える歴史と伝統ある学校である。

学区の東には、鳥海山の裾野が広がり、西は、庄内砂丘を隔てて日本海に接している。学区の北を滝淵川、洗沢川、南を高瀬川が流れ、それを取り巻くように水田地帯が広がり、自然豊かな地域である。

二、特色ある取組み

保護者や地域住民の教育に対する関心は非常に高く、その協力的な姿勢は、高瀬小PTA活動の特色ある取組みに結びついている。

「高瀬っ子 学習活動での育み」

○キャリア教育の推進

各学年で保護者を講師として迎え、仕事内容や働くことの充実感・苦勞などを子どもたちに話したり、体験させたりするキャリア教育を行っている。学年の発達段階に応じた職業

観・勤労観を育成している。

○読書活動の推進

保護者による学校での読み聞かせや家庭での親子読書、親子で借りるこの一冊などは、豊かな感性と思考力・想像力を育てるだけでなく、親子のコミュニケーションを深め、絆を高めることにつながっている。

○生活リズムチャレンジ

子どもたちの生活リズムを確かめ、学校・家庭で健康的な生活リズムをともに考えながら改善に向けて取り組んでいる。児童を中心に学校と家庭が連携して取り組んでいるこの活動は、生活リズムへの問題意識を高め、生活改善につながっている。

「高瀬っ子 地域の良さの再発見」

○自然教室への支援

四・五年生で行われる「自然教室」は、PTA・地域との連携・協力のもと、地域の自然環境を生かした活動が行われている。いかだ下りや高瀬峡ハイキングなどは、事前学習から当日の活動まで、保護者も指導者として協力している。

○学年親子行事への支援

「高瀬の風を利用したペットボトル風車づくり（二年生）」や「親子サイクリング（三年生）」「鳥海登山（六年生）」など地域素材を活用した学年親子行事を積極的に計画し実施している。親子での活動を通して絆を深めるとともに、地域の良さを再確認し、新たな発見へとつながっている。

「地域で見守り育てる高瀬っ子」

○高瀬っ子を守る会とPTAが連携
登下校や地域での活動における安全確保に向け、青色パトロール隊の巡回や地区区長会・PTA合同の危険箇所検討委員会での危険箇所マップの作成、高瀬っ子を守る会などでの情報交換など多方面から高瀬っ子の安全に向けた取組みを行っている。
○まちづくりセンターとPTAが連携

夏休み開かれる美童里（みどり）川「ざっこしめ教室」。夏休みになると各地区に分かれてしまう子どもたちに、高瀬まちづくりセンターとPTAが連携して、学校前を流れる美童里川を利用した「ざっこしめ」、生息する魚の学習、流しそめんなどの取組みを開催している。

夏ならではこのイベントは、多くの子どもたちが参加し、夏休みの最高の思い出となっている。
また食育の推進として「親子料理

教室」を高瀬まちづくりセンターと母親委員会が連携して開催している。

当日は、保育師、ヘルスメイトの方々の協力のもと、健康な食事メニューの調理に取組み、食育の重要性を知る機会となっている。親子で楽しみながら行う料理教室には、年々参加者数が増えるとともに、家庭での親子の料理づくりにもつながっている。

三、成果と今後の方向性

会員数の減少に伴い、PTA活動のあり方や組織の見直しを行い保護者の負担軽減を図ることができた。またPTA活動は、「すべて子どもたちのために行っている」ことを、会員に「理事会だより」などで分かりやすく伝えることで、活動への協力と必要性を理解してもらうよう働きかけた。

その結果、熱心に参加する会員が増え、以前よりPTA活動が活発になってきたことやPTA活動を通して、地域との「つながり」が深まったことが成果として上げられる。

しかし今後も会員数は減少するたため、会員の声をもとに、PTA活動がさらに充実するように検討を加えて、「やって良かった」と感じてもらえる活動にしていきたいと考えている。

一、はじめに

本校は、明治七年に天童東学校荒谷分校として創設された。以後、山寺小学校と干布小学校の分校を経て、昭和三十二年に豊栄村立荒谷小学校として独立開校し、今年度六十周年を迎えた。児童数一〇一人、家庭数八〇の小規模校である。荒谷地区は、果樹栽培が盛んでサクランボ、ラ・フランス、りんご、ぶどう等の果樹園が広がる。また、県総合運動公園が近くにあり、モンテディオ山形のホームタウンとしてチームへの関心が高い地域である。

PTA組織は、会長、副会長、子育て支援委員長の三役に学年委員長からなる常任委員会で企画・立案し、全会員の協力を得て、様々な取り組みを行っている。

二、特色ある取り組みについて

(一) 親子あつたか運動

① 挨拶運動

「あいさつカード」を作成し、友達や学校内だけでなく、地域の方々への挨拶運動に取り組み、誰にどのようなに挨拶したかを記入した。低学年では、「いただきます」「ごちそうさま」に重点を置き、ご飯が食べら

れることへの感謝の気持ちが生まれた。

② 早寝・早起き・朝ご飯運動

長期休業後に「元氣アツプカード」を使って年三回実施。保健だよりで、カードに記載してもらった感想を紹介し、取り組みの様子を共有化した。

③ アウトメディア運動

長期休業中に、「アウトメディアカード」を活用し、テレビやゲームをなるべくしない日を設けるなど、家族でメディア視聴の時間を考えて取り組んだ。

(二) 親子でピッカピカ大作戦

十月に「親子でピッカピカ大作戦」を実施し、窓ふきやトイレ掃除を協力して行い、学校環境整備に尽力した。当日は、九割以上の児童、保護者が参加し、普段手の届かないところをきれいにした。

(三) ハートフル運動

各学年で思いやりの気持ちや家族との絆を深めるために、お手伝いをしたり感謝の気持ちを伝え合ったりする取り組みを行った。思いやりやさしさ、感謝など、社会生活で大切なことを育んでいる。各学年の取り組みは、次の通りである。

・「お手伝いカード」を準備し、家の人から励ましや感謝の言葉をもらう。

・児童会の募金活動と連携し、意義等を考える。

・自分の善い行いや友達がしてくれた善い行いをカードに記入し、掲示した。

(四) 親子読書運動

学年行事と連携して親子で読み聞かせボランティア「葡萄の木」の読み聞かせを聞いたり、毎月第一日曜日に、「子どもから親に読み聞かせをする」という取り組みを行ったりする等、各学年で工夫を凝らし、「親子読書運動」を展開した。

〈一年〉親子行事で、葡萄の木の読み聞かせの後、本の紹介をグループで行った。

〈二年〉子どもが選んだ本を子から親へ読み聞かせをする取り組みを毎月第一日曜日に実施した。

〈三年〉学年行事の中で親子それぞれがお勧めの本を持ち寄り、各自紹介した。

〈四年〉家庭毎に工夫したことや感想を学年だよりに掲載した。

〈五年〉毎月一回親子読書を行い、選んだ本の題名と感想を親子読書カードに記入した。

〈六年〉アウトメディアに合わせて実施。

(五) 学年行事

休日を利用して学年行事を行い、親子や会員同士の親睦を深めることができた。

〈一年〉和菓子づくりで練り切りに挑戦。親子読書も合わせて実施。

〈二年〉たこやきパーティー

〈三年〉陶芸、芋煮、親子読書

〈四年〉西沼田遺跡公園で「古代競技に挑戦」

〈五年〉陶芸教室（若松焼き）

〈六年〉山寺へのサイクリング。五年生の時に作成した荒谷地区のリーフレットを山寺で配布し、PR活動を行った。

(六) 全会員と婦人会で行う資源回収

本地区の育成会と婦人会が中心になって、資源回収を年二回実施している。PTA組織には、環境整備部がないため、各地区の子ども育成会の会長が配車、回収のとりまとめ役となり、事務的な仕事は婦人会が担当している。家庭数の減少で車両の確保が難しい中、地域の建設業者の協力を得て、スムーズに回収することができた。

三、成果と今後の方向性

親子あつたか運動は定着しつつある。さらに、平成二十八年年度からハートフル運動（思いやり運動）に取り組んでいる。学年毎に工夫を凝らして家庭内での思いやりの心を育むきっかけになった。

このたびの優良PTA文部科学大臣表彰は、先輩方が長年取り組んできたアウトメディア運動などの親子での取り組みが評価されたものである。これからもこの賞に恥じぬよう、会員の参画意識を高め、地域と一体となったPTA活動を展開していきたい。

「親子あつたか運動」で家庭の絆づくり 子どもたちの健全育成を支援するPTA活動

優良PTA文部科学大臣表彰

天童市立荒谷小学校PTA会長 武田 仁

この度、平成二十九年度「優良PTA日本PTA全国協議会会長表彰」の受賞にあたり、これまでの活動を支えてくださった諸先輩の方々、教職員・蔵王温泉の皆様にご心より感謝申し上げます。これからも、すべては子どもたちの為に、充実したPTA活動に努力してまいります所存です。

ここ数年、子どもたちを取りまく環境は複雑化の一途をたどり、保護者もその環境の変化の速さに戸惑いを隠せない現実があります。また、長年にわたって子どもたち、保護者、教職員を悩ませ続けている「いじめ」の問題も抱え続けたままです。「いじめ」の問題は減少するどころか、SNSをはじめとするインターネット等の環境により、深刻化・巧妙化しており新聞・TV等の報道で見かけない日はないといっても過言ではありません。

その例を持ち出すまでもなく、我々の身のまわりには教育格差・収入格差・地域格差・学力格差・格差の固定化・貧困スパイラルなど様々な問題が学校・家庭を取り巻き翻弄し続けます。

「モンスターペアレント」「ネグレクト」などといった言葉も今では一昔前のように感じられ、減少したか無くなったかのようには思われませんが、実際には潜在していた問題が概念化し、新しい言葉となり次々と表面化し、前の問題を隠しているにすぎません。我々は波のように押し寄

せる様々な現実の中で押しつぶされるような錯覚にさえ陥ります。

また、学校の先生方の労働環境、勤務の長時間化、とりわけ部活動の在り方がクローズアップされ現在、問題として提起されています。「聖職」という言葉で片付け、現実から目を背けてはいなかったでしょうか。そして我々PTAも人選から始まり、役職の押し付け合い、無関心、非協力等、各PTAは様々な問題を内包しており、果てはPTA不要論も出る現状があります。

間、労力をPTA活動に注いでいるのかを感じられこれからの自分に勇気を与えてもらいました。そしてあらためて自らが所属するPTAの活動がいかに大切なものかを知り、諸先輩の方々の努力の偉大さを再認識するに至りました。

本校は「蔵王の未来を支える子ども育成」という具体目標を掲げキャリア教育を中核とした教育実践を、保護者・学校・地域が三位一体になって進めています。地元の歴史や魅力を知り、自分た

日本PTA全国協議会会長表彰

「優良PTA日本PTA全国協議会会長表彰を受けて」

蔵王温泉PTA会長 斉藤慎爾

私自身、教育・学校というものを社会問題の視点でとらえることは、これまでありませんでした。しかし、PTA会長という大役を仰せつかったから始めて現実というものに向き合うようになったかもしれません。

しかしながら、この度「優良PTA日本PTA全国協議会会長表彰」を受け、実際に授賞式に招かれ、全国区という熱いパワーをこの身に感じてきました。

懇親会では、初めて会う方との雑談だけでも、どれだけ自分自身の時

ちが蔵王の山々の恩恵を受け連帯して繁栄を築き、またその事を子々孫々に伝えていこうとするものです。人と人との関わりが希薄になってゆく現代において、家庭と地域の密接な連携と、故郷を理解し大切にす

る心の育成はとても大事なものと私たちは考えます。優しい笑顔にあふれる地元は子どもたちがいてこそであり、夢に向かいチャレンジする子どもは地域の財産と信じています。

自尊感情の向上が心豊かな子ども

を育成します。そして基礎学力の定着と自立した学びの充実が自分を育ててくれる地域の理解を深めます。小中併設校だからこそできる9年間を通した一貫教育、きめ細やかな指導、家庭及び地域と連携した学校行事、大自然を生かした活動など本校の特徴を十分に生かしながらこれからも確実に前進を続けます。

今、子どもたちを取り巻く環境は従来からの「いじめ」や「不登校」に加え、教育の格差、ネット社会のモラルなど、状況がさらに複雑化、深刻化しております。まずは親である我々保護者が、子どもたちの状況をしっかりと把握し、学校教育のみ委ねるのではなく親と先生とがしっかりと信頼関係を結び、協力し合っていくことが大切だと考えます。

子どもはあらゆる場面でいろいろな方と交わります。家庭・地域の協力が不可欠です。子どもの健全な成長を促すのは大人の大きな責任です。また、我々PTAは子どもたちの教育のみならず、地域全体の発展にも貢献していかなければならないと考えます。郷土愛を育み、子どもたちが夢と希望を抱ける、そんな魅力的な故郷を作っていきたいと思っております。

全国表彰をとおしてPTA、そして子どもたちの未来の明るさを感じずにはいられませんでした。

一 はじめに

本校は、山形県南部にある川西町の南部に位置し、なだらかな丘陵に囲まれた自然豊かな環境であり、明治六十年上奥田小学校（上奥田、大舟連合）として創設された。今年創立百十四周年を迎える。明治以来、常に地域の方によって支えられ「地域の子どもは、地域で育てる」という考え方が定着している。

児童数が減少する中、平成三年度より山村留学協力を中心にPTAも協力して東京都町田市との「やんちゃ留学」が始まる。今年で二十七年延べ八百二十名を受け入れている。またこうした活動により、平成二十五年度には、県内初のコミュニティ・スクールに指定される。現在少子化の影響により今年度をもって閉校することになり、平成二十九年度の児童数は十八名である。

二 特色ある取組みについて

① PTA組織

本PTAは、会長一名・副会長三名（内一名学校職員）・幹事三名（学校職員）・監事二名（前自治会長、中学生保護者）・常任委員二名（自治会長、副自治会長）・専門部から構成される。

専門部は全員が学年部か文化部に入っており、活動は次のとおりである。会費も地区内全戸よりいただいている。

【学年部】

- ・地区行事への協力
- 地区夏祭り○運動会○収穫感謝祭
- 学年行事【平成二十九年度】
- 《全校生》宿泊体験、閉校記念制作
- ・スキー教室での講師
- 【文化部】
- ・広報誌（やまびこ）の発行
- ・標語のぼり旗の設置

② あいさつ運動

生活の基本である「あいさつ」の向上を図るため、地域・学校・家庭が一体となって、明るく元気にあいさつができる心を育てている。

PTAでは、特に親子のコミュニケーションを大切に、「あいさつ運動」を広げている。

また、学校運営協議会の取り組みとして、全戸にタスキ配布し、地区全体であいさつ運動を推進している。

これは、地区交流センターとの共催による取組みであり、地域・学校・児童・保護者と一緒になりメディアとの正しい付き合い方を学ぶ機会となった。

⑤ 母親のつどい

学校行事の後に実施し、懇談や懇親会を計画し、共に学ぶ機会や会話をする機会を作り、母親同士のつながりをさらに深めている。

⑥ 地域との環境整備

年に二回、地域の方・学校職員・児童・保護者により学校周辺の環境整備を実施している。春は雪囲いの撤去・側溝の落ち葉清掃・遊具の取



③ 親子読書運動への取り組み

親子読書で、親子のコミュニケーションを深め、対話のある家庭づくりに取り組んでいる。

月に一回、「親子読書の日」とし各家庭で無理のない時間帯に「親子読書」を設定している。また県PTA連合会の親子読書に全会員で取り組み、読書への意識を持たせている。

④ 教育講演会の実施

メディアとの関わりが強くなっていく現状で、使い方によっては便利になるものの、一方でトラブルに巻き込まれる恐れがあるため、米沢警察署より講師を招き講演を行った。

⑦ 運動会への協力

本校の東（あずま）運動会は、少人数のため地区運動会と一緒に開催をしており、PTAでは会場準備や撤去、運営役員等を行っている。平成二十八年度は、学校敷地にあるツリーハウスの補修と新規設置のため来校した東北芸術工科大学の学生

⑧ 夏祭り及び収穫感謝祭への協力

加いただき、地域全体が一体となって盛り上がることでできる場を演出できた。

地域行事には、PTAとしても会場準備から撤去作業まで行っている。当日は綿飴・ポップコーン・かき氷等の食べ物の担当をしており、子ども笑顔が身近に感じられる行事となった。

収穫感謝祭は小学校の学芸会も兼ねている。来場者は、子どもたちの真剣な演技に見入っており、地域全体として子どもたちの確かな成長を実感できる機会になっている。

⑨ やんちゃ留学（短期留学）への協力

東京都町田市内の小学校より三年生から五年生の二十一名が、四泊五日の日程で参加。地域との交流、本校児童との交流があり、その中でPTAとしては、ホームステイによる児童の受入れ・バーベキュー大会・魚釣りの会場となる堤の整備などの協力を継続して行っている。少人数の本校児童にとっても、都会の子どもたちとの出会いと交流は、個々の成長につながる貴重な場となっている。

三 成果と今後の方向性について

人口減少が進む中にもあっても、本校PTAは地域の協力のもと、より一層コミュニケーションを密にし、なら、子どもたちの健全育成をめざしPTA活動を共に楽しめるような環境づくりを努めてきた。子どもたちの姿からは確かな成長が感じられ、「地域の子どもは、地域で育てる」という考え方が間違いないことを実感している。

閉校になっても、こうした考え方が受け継がれ、地域・学校及び保護者が連携をとり、共通の課題意識を持ちながらPTA活動が推進されることを願っている。

東北PTA連絡協議会会長表彰

絆を合言葉に、子どもの笑顔に

つながるPTAをめざして

河北町立溝延小学校PTA会長 若木保雄

一、はじめに

本校は、明治八年に溝延八幡宮の別当神宮寺宮本勇氏宅に創立された。昭和初期には、九〇〇人を越える大規模学校だったが、次第に少子化が進み、現在の児童数は八十六名となっている。

二、PTA組織

本PTAの組織は、会長一名、副会長二名、会員八十七名（職員・保護者）の体制である。運営委員会（執行部、専門部長、学年委員長、顧問）で全体の計画を作成し、総会等に提案している。

また、専門部は、文化部・保健部・母親委員会から組織され、その他に、子ども会育成会も組織の中にあり、各地域から育成委員を選出している。

本PTAの特色ある活動は次の通りである。

① 学年PTAによる親子行事開催
一年「イタリアン野菜の収穫とカレー作り」、二年「陶芸教室」、三年「自転車安全教室」、四年「モス食育プログラム」、五年「そば打ち」、六年「月山親子登山」を行った。

② 川の学習 五・六年



古里を流れる寒河江川・最上川に親しみ、自然を愛する子どもを育てようとして取り組んでいる。タイヤチューブを使っての川下りや水生生物の観察、アユの試食をしたり、カーン体験をしたりと内容が豊富である。実際に川に入るため、安全性を確保するにはPTA会員の協力無しでは行えない活動である。

三、成果と課題

会員同士の意思疎通が深く、一丸となって目標に向かうことができていいる。そのため、学校の教育活動に求められている目標を、十分に理解しながら支援を行うことができ、全ての行事で、子どもたちの満足感が高く、充実した結果につながっている。課題としては、児童減少に伴い会員が減少しており、充実した活動を行うための役員の確保となっている。

東北PTA連絡協議会会長表彰

保護者・地域・学校が

一体となって児童の健全育成を

尾花沢市立宮沢小学校PTA会長 三浦靖彦

一、はじめに

本校は、平成二十五年に明徳小学校と高橋小学校を統合して創立した新設校である。

平成二十九年度の児童数は四十四名で、複式学級二つを含む学級数四の小規模校である。地区の戸数は約五百七十戸である。

PTA組織は、文化部・生活部・保健部の三つの専門部が活発な取組みを行っている。また、地域の各機関が児童の健全育成を支えている。

二、特色ある取組みについて

① PTA専門部

【文化部】
・年三回、PTA新聞発行
・地域全戸に配布

【生活部】

・年二回サイクル活動の計画・実施。広報車で地域にお知らせ
・年二回の危険箇所点検と安全マップの作成、配布

【保健部】

・市内運動大会、スキー大会運営協力
・市連合PTAレクリエーション大会運営協力

【母親委員会】

・学校保健委員に参加運営
② 学年PTA親子行事の開催

各学年の発達段階に応じ、様々な活動やスポーツなどを通して、親同士、子ども同士の交流を図っている。

【親子行事の例】

・お菓子屋さんでケーキ作り体験
・夏の天体観測会
・山寺見学
・宿泊体験

③ 地域の各機関との連携
・月一回、読み聞かせボランティアが訪問
・月一回、「健全育成市民の会」と連携して登校時にあいさつ運動

・「芭蕉の道フラワーロード咲花草会」と県道に花植え
・「上皇祭り」実行委員会との連携、参加

・「元氣おばね絆駅伝大会宮沢地区実行委員会」との連携、参加
・市の連合PTA会による取り決めを受け、夜十時以降のメディアにふれない生活リズム改善への取組み

三、成果と今後の方向性

開校五年目を迎えるが、保護者・地域・学校が一体となって健全育成に取組み、事故がない。三つの専門部が主体的に活動し、PTA活動を盛り上げ、学区教育活動を支えている。

今後は、学校・PTAがこれまで子どもたちの健全育成を支えてくださった地域の方々や各種団体にどう貢献していくかが課題である。地域とのつながり・絆を大切にして、子どもたちがふるさとに誇りを持ち愛し、健やかに成長していくようにPTA活動にまい進していきたい。

栄えある表彰 おめでとうございます

今年度、県PTAや郡・市PTA、単位PTAにご尽力なされ、多大のご功績をあげられた団体・個人の方々に感謝状や表彰状が贈られました。また、PTA広報紙も全国コンクールにおいて奨励賞を受賞されました。おめでとうございます。(敬称略)

平成29年度 文部科学大臣表彰

天童市立荒谷小学校PTA
遊佐町立高瀬小学校PTA

平成29年度 日本PTA全国協議会会長表彰

〈団体表彰〉

蔵王温泉PTA
(山形市立蔵王第三小・蔵王第二中)
川西町立東沢小学校PTA

〈個人表彰〉

田中 正浩 (前県P連副会長)
阿部 哲也 (前県P連副会長)
五十嵐 崇 (前県P連副会長)
上嶋 竜一 (前県P連副会長)

平成29年度 東北PTA連絡協議会会長表彰

〈団体表彰〉

河北町立溝延小学校父母と教師の会
尾花沢市立宮沢小学校PTA

〈個人感謝状〉

荒井 寛 (前山形県PTA連合会会長)

〈個人表彰状〉(前県P連理事・監事)

結城誠一郎 前山形県PTA連合会理事
松田 一成 前山形県PTA連合会理事
高橋 史直 前山形県PTA連合会理事
嵐田佳津真 前山形県PTA連合会理事
西方 茂太 前山形県PTA連合会理事
青木 徹 前山形県PTA連合会理事
長永 一男 前山形県PTA連合会理事
戸屋 英治 前山形県PTA連合会理事
村上 和彦 前山形県PTA連合会監事
高橋 智文 前山形県PTA連合会理事

平成29年度 優良PTA山形県教育委員会表彰

河北町立溝延小学校父母と教師の会
蔵王温泉PTA (山形市立蔵王第三小第二中学校)
天童市立荒谷小学校PTA
尾花沢市立宮沢小学校PTA
最上町立富沢小学校保護者と教師の会
大蔵村立大蔵中学校父母と教師の会
川西町立東沢小学校PTA
長井市立伊佐沢小学校PTA
遊佐町立高瀬小学校PTA
山形県立山形中央高等学校PTA
山形県立米沢興譲館高等学校教育振興会

山形県PTA連合会会長表彰

〈感謝状〉平成28年度県P連役員退任者

荒井 寛 県P前会長
田中 正浩 〃 前副会長
阿部 哲也 〃 前副会長

上嶋 竜一 〃 前副会長
五十嵐 崇 〃 前理事
結城誠一郎 〃 前理事
松田 一成 〃 前理事
高橋 史直 〃 前理事
嵐田佳津真 〃 前理事
西方 茂太 〃 前理事
青木 徹 〃 前理事
長永 一男 〃 前理事
戸屋 英治 〃 前理事
本田 淳 〃 前理事
高橋 智文 〃 前理事
村上 和彦 〃 前監事

〈表彰状〉郡・市PTA連合会より推薦

堀 明彦 山形市P連前副会長
吉岡 裕志 山形市P連前副会長
戸田 大介 山形市P連研修大会前実行委員長
大崎 理恵 天童市P連前会長
石川 茂光 中山町P連前会長
稲村 清美 山辺町P連前会長
小林 基流 大石田町P連前会長
星川 憲雄 最上地区P前副会長
渡部 昭仁 最上地区P前副会長
阿部 夏美 最上地区P前母親委員長
佐藤 誠志 東置賜地区P前副会長
梅津 稔 東置賜地区P前副会長
佐々木一広 鶴岡市P連前副会長
山田 専 酒田市立松陵小P前会長
日下部紀子 酒田市立東部中P前会長
小山 敏子 酒田飽海P連前母親委員長

平成29年度 第39回全国小中学校広報紙コンクール

〈日本PTA奨励賞〉

新庄市立沼田小学校PTA
真室川町立真室川小学校PTA
最上町立東法田小学校PTA
鶴岡市立朝暘第三小学校PTA
酒田市立松原小学校PTA
酒田市立亀ヶ崎小学校PTA
寒河江市立陵東中学校父母と教師の会
河北町立河北中学校PTA
酒田市立東部中学校PTA
酒田市立第四中学校PTA
〈山形県PTA連合会会長賞〉
最上町立大堀小学校PTA
新庄市立北辰小学校PTA
大蔵村立大蔵小学校PTA
鶴岡市立櫛引東小学校PTA

第65回日本PTA全国研究大会仙台大会に参加して



山形県PTA連合会
副会長

鈴木 聡

平成二十九年度副会長の東置賜地区・南陽市の鈴木聡です。

八月二十五日・二十六日の両日に亘り、仙台の地で「つながろうPTA！子どもたちの輝く未来のために」杜の都発！みちのくの今を伝えたい 感謝の思いと確かな歩みとともに」を大会スローガンとし、全国研究大会が開催されました。約八千人の全国のPTA会員が集い、初日は十分科会に分かれ、それぞれの研究課題ごと基調講演、実践発表、パネルディスカッションが行われました。

私は、「広報活動」第四分科会に参加しました。歓迎アトラクションでは、津軽三味線奏者の浅野祥氏の迫力ある演奏に聞き入りました。基調講演は、女優の酒井美紀氏で「学校と仕事と私」と題してありました。

女優として、母親として、国際NGOでの教育支援ボランティアでの活動を紹介され、PTA活動との共通点を述べられました。

実践発表では、前仙台市立富沢中学校PTA会長から自分たちができることから始め生活習慣や親の気持ち、子の気持ちそれぞれを取材やアンケートで把握し、発信することで多くの保護者の参加を得たこと、多くの仲間を得たことを報告いただきました。

パネルディスカッションもとても参考になるものでした。

二日目は、全体会。開会のあいさつで、第一分科会の基調講演者、NPO法人コヂカラ・ニッポン代表の川島高之氏の「PTAは期間限定の特権である。」が紹介されました。胸に響く言葉でした。

記念講演は、「オリンピッククへの挑戦〜家族の絆で掴んだ父娘メダル〜」と題して、三宅義行・宏美父娘でした。最後までやり通すこと、サポートの大切さ、一人では何もできない、声掛けが重要など、キーになるワードが紹介されました。

結びに、全国大会で得た学びを今後の活動に活かしてまいります。

皆さまも「期間限定の特権」を有効に活かしていただき、二〇一九年の東北大会南陽・東置賜大会へ是非ご参加ください。

日本PTA国内研修に参加して

素晴らしい自然と最高の仲間

三川町立三川中学校

齋藤 百葉

私は、三月二十六日から三十日までPTAの国内研修に参加してきました。

一日目、班が決まり自己紹介をしました。私は人見知りをしてしまうので、皆と仲良くなれるか不安がありながら研修が始まりました。二日目の野外炊飯では、カレーを作りました。班員で協力しておいしいカレーを作ることができました。その後のワークシッップで私は琉舞を体験させていただきました。沖縄伝統の曲に合わせて踊るのはとても難しかったです。伝統文化を体験することができ、よい機会となりました。三日目の平和学習では、沖縄戦について実際に体験した方からお話を伺いました。戦争の恐ろしさを改めて感じ、今私たちが平和に暮らしていることの大切さがわかりました。戦争は日本に大きな傷をつくり、多くの命を奪った悲しい出来事です。この出来事を忘れたくても忘れることが出来ないと思うし、忘れては、いけないことだとも思います。同じ過ちを繰り返さないために今ある時間を大事にし生活していきたいです。

その後の海洋研修では、沖縄のきれいな海と自然に触れることができ、嬉しかったです。生で亀を見るのは初めてでしたし、シュノーケリングなど様々な体験ができ、とても楽しかったです。

私はこの研修で、沢山の「初めて」を体験しました。沖縄の文化、料理はもちろん、沢山の自然に触れ、本当にこの研修に参加することが出来てよかったなと心から思います。研修前の不安が、嘘のように皆との絆が深まり、あつという間の五日間でした。楽しかったことだけでなく、学んだことも多くありました。この研修に参加できたこと、沢山の人たちに出会えたこと、とても貴重な時間を過ごせたこと、全ての事に感謝の気持ちがあります。素敵な時間をありがとうございました。

最高の思い出

鶴岡市立鶴岡第二中学校

太田 港人

三月二十六日。不安な気持ちで集合場所の羽田空港に着いたことを今でも覚えています。しかし、空港や飛行機内で会話を重ねるうちにみんなが同じ不安な気持ちであったことがわかりました。そうならば、当然、みんなの会話が弾み、一気に仲が良くなりました。

そんな中、沖縄に着くと三月とは思えない程の熱さから出迎えられました。班分けは既にされており、僕は、九班となりました。

一日目は、渡嘉敷島に移動しながら班員と仲良くしていこうと心がけました。二日目は、村内散策をしました。沖縄ならではの台風に備えている家造りや南国

風の植物などを見ました。一番驚いたのは、ほぼ全ての家にシーサーが置いてあったことです。守り神として定着しているんだと思いました。お昼には、野外炊飯をしました。失敗しましたが、みんなで協力して作り上げたカレーライスはやはり格別においしかったです。午後からは、ワークシヨップとなり、人生初の獅子舞を体験し、夜の大交流会で発表をしました。三日目は、平和学習から始まり、沖縄戦という歴史の勉強ではその単語しか覚えませんでした、日本人として知っておかなければいけない事実がたくさんありました。集団自決、日本軍による虐殺。本当に地獄絵図だと思います。午後からは、海洋研修できれいな海を満喫しました。

四日目。渡嘉敷最後の日でした。フェリーに乗り、たくさん思い出詰まった島を離れるのが本当に辛かったです。夜は、自分がこれからどう生きていきたいのか、というアクション宣言をし、友との最後の夜を楽しみました。いよいよ、五日目、お別れタイムでは、みんなのTシャツにメッセージを書き合い、泣いてお別れをしました。本当につらかったけど、清々しくもありました。あれから手紙でのやりとりが続いています。偶然出会った友との最高の思い出をこれからの生活に生かします。



合同復興支援活動参加児童生徒感想

復興支援交流活動に参加して

長井市立西根小五年

青木 鉄平

三月二十五日に、東日本大震災の被災地を見たり仮設住宅に住んでいるおじいちゃん、おばあちゃんたちと交流してきました。

前の日の夜は、明日行くのが楽しみでもあまりよく眠れませんでした。当日は、置賜号のバスに乗って石巻市に行きました。行き帰りのバスの中では、他の小学校の人達と色々なクイズを楽しんできました。

石巻の津波の被害にあった大川小学校に行くと慰霊碑に手を合わせて、「前みたいな震災がまた起こらないように」とほくほく、願いました。そのあとに、仮設住宅で、おじいちゃんやおばあちゃんとお話になりました。一班から六班でグループをつくりました。そのグループごとにトランプゲームをしました。

おじいちゃんとおばあちゃんとペア同士で同じカードを当てたらペアのものです。みんなとてもうれしそうに楽しんで、過ごすことができました。

みんな、芋煮とカレーうどんをそれぞれになりました。みんなで食べる芋煮は、格別でした。ほくほくはこの石巻市がまた元気になることを望みたいです。ほくほくは、貴重な経験ができたと思います。

石巻市で交流したよ

高畠町立和田小五年

西方 愛華

私は最初に大川小学校というところに行きました。

なぜかというところは津波で流されてしまったからです。私は見ておどろきました。建物の壁も全部はがされてしまい元の姿が分からないほどでした。中をみると、中野の教室が見えたり、ここが教室なのかわからない部屋がありました。

津波の高さは小学校を飲み込んでしまうほどでした。だから、高台に逃げようとした人も流されてしまったのだと思います。次に仮設住宅に行きました。そこには被災したたくさんの方がいました。私は、その仮設住宅の人たちと一緒に交流をしました。初めは神経衰弱をしました。石巻の人たちとチームを組んでやりました。私たちのチームは七組取れました。

震災の爪痕

上市市立宮川小学校六年

鈴木 優音

今回合同復興支援交流会に参加させていただきありがとうございます。感謝の気持ちを含め、この文章を書くこととともにも四百字では足りないのので短くまとめさせていただきます。

この交流会では、たくさんの方を学ぶことができました。

特に震災を経験した方々のお話はとても貴重な体験でした。私も東日本大震災のとき、地震を体験しましたが、「津波」の被害の状況は教科書や本で見たことしか知りませんでした。実際にお話を聞くと、本では知りえなかった情報をたくさん聞きました。その方たちが経験した「苦労」というものを直に感じた気がします。

「爪痕」というのは、津波による被害という意味と、人の心という意味の二つがあると思います。今後どちらの「爪痕」も癒えることを願っています。(残したほうがよいという考え方もありますが……)

最後になりますが、被災された皆様並びにご家族の皆様にご心よりお見舞い申し上げます。

山形県PTA連合会安全互助会から

安全互助会は山形県PTA連合会事業の一環として運営されています。関係各位・保護者の皆様のご支援・ご協力に感謝申し上げます。

安全互助会ってなあに？……加入については学校PTAごとになります

- * 児童・生徒の学校管理下外のけがを補償します。
- * PTA行事中での会員（児童・生徒・保護者・教職員）傷害事故・賠償事故を補償します。
- * 補償の内容によってA・B・C・特A・特B・特Cの6コースがあります。

※近年の賠償事故の件数・支払金額増加傾向の対策として、賠償補償限度額1000万円の特3コースを！

安全互助会加入校のうち50%の学校PTAが移行されています。万が一の事故に備え、是非ご検討下さい。

※子どもが自転車に乗るときはヘルメットを着用させましょう。

傷害事故1030件のうち94件が自転車に係る受傷です。ヘルメット着用は努力義務です。ヘルメット着用を習慣化し、子どもたちを重大事故から守りましょう。

※事故の未然防止が一番大切です。

- ・スポ少活動中の事故が299件で最多となっています。指導者や保護者のご協力をお願いいたします。
- ・登下校や外出時は安全確認の声掛けで注意喚起し、事故防止にご協力下さい。

加入294校の内訳		
A	136	特A 137
B	8	特B 9
C	1	特C 3

	傷害事故支払状況 (単位：千円)			
	件数	児童・生徒	件数	PTA傷害
平成26年度	1,371	12,792	77	2,657
平成27年度	1,245	12,161	63	2,084
平成28年度	1,240	11,749	53	2,848
平成29年度(1月末)	989	9,104	40	1,897

	賠償事故支払状況 (単位：千円)	
	件数	金額
平成26年度	42	2,642
平成27年度	77	5,156
平成28年度	71	3,411
平成29年度(1月末)	75	3,866

第70回山形県PTA研修大会上山大会のご案内

山形県PTA連合会副会長 齋藤 真朗



来年度の山形県PTA研修大会を平成三〇年十月二一日日曜日、上山市の三友エンジニア体育文化センターを会場に、上山市PTA連合協議会が主催となって開催します。

昭和二十四年に山形市を会場に開催された第一回大会から数えて第七〇回目となる記念すべき大会を上山市において開催できますことを誠に喜ばしく感じる次第です。

さて、今回の大会主題は、「はぐくもう人間力 つなごう「いのち」と「いのち」きざこう子どもが輝く郷土（ふるさと）」です。

昨今、SNSをはじめとするメディアの普及やライフスタイルの変化などに伴い、直接的なコミュニケーションを交わす機会が減少する中、子どもたちが自分の思いを表現する力や、他人に共感する力、異質を許容する力といった、社会生活に大切な「人間力」をいかに育むか、というテーマは、現在、子育てに携わる保護者ばかりではなく学校や地域社会にとっても共通の課題なのではないかと思えます。

また、上山市も例外ではありませんが、少子化が進み、コミュニティの維持・存続が危惧される地域も少なくない中、将来の地域の担い手として、心身ともに健全な子どもたちをいかに育ていく

か、といった観点も含めまして、この研修大会を通し、皆さんとともに考えてまいりたいと思えます。

具体的には、四つの分科会において、①活動が活性化するPTA組織と運営、②情報メディアに積極対応するPTA活動、③地域と子どものつながりを深めるPTA活動、④子どもの生活習慣を確立するPTA活動、⑤子どもい

のちを守るPTA活動、それぞれのテーマの下、パネリストの皆様から各地域のPTAでの実例を発表いただきながら、会場の皆様とともに学びを深めていきたいと考えております。

現在、二〇二〇年に開催される東京オリンピックに向けて日本中の期待が高まっているところですが、記念講演には、東京オリンピックの招致でも活躍したソウルオリンピック・シンクロナイズドスイミング競技の銀メダリスト、小谷実可子氏をお招きし、子育て中である自身の経験も交えご講演いただき、七〇回目となる大会を盛り上げてまいりたいと考えております。

第七〇回の記念大会が、本県のPTA活動において有意義な大会となりますよう、上山市内の八つの小中学校のPTAが少数ながら一丸となって準備を進めてまいりますので、多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。

平成29年度 山形県PTA連合会役員名簿

会長	鈴木 真一	山形市PTA連合会	第六中	理事	佐藤 司	酒田飽海PTA連合会	若浜 小
副会長	佐藤 博之	山形市PTA連合会	第六小	理事	伊東 守	県小学校長会	新庄日新小
副会長	齋藤 真朗	上山市PTA連合協議会	南 中	理事	渡邊 裕美	県中学校長会	山大附属中
副会長	涌井 洋一	最上地区PTA協議会	新庄小	理事	堀田 理恵	県P母親委員長	蔵王第一中
副会長	鈴木 聡	東置賜地区PTA連合会	宮内中	理事	佐竹 直子	県P副母親委員長	上山南中
理事	佐藤 正教	天童・東村山地区PTA連合会	中山中	監事	尾形 吉則	山形市PTA連合会	山六中
理事	荒木 茂	西村山PTA連合会	陵南中	監事	阿部 勉	山形市PTA連合会	楯山小
理事	柴崎 雅紀	北村山PTA連合会	楯岡中	監事	佐藤 博美	天童・東村山地区PTA連合会	中山中
理事	大町 竜哉	米沢市PTA連合会	第二中	事務局長	村山 良光	山形市PTA連合会	
理事	小松 寛幸	西置賜地区PTA連絡協議会	白鷹中	事務局員	佐藤 静子	山形市PTA連合会	
理事	岡崎 克己	鶴岡市PTA連合会	第三中	事務局員	熊谷 慶子	山形市PTA連合会	
理事	中村 慎一	東田川郡PTA連合会	余目中				

御礼とお知らせ

今年度は、八月に仙台市で日本PTA全国研究大会が開催され、県内から多くの会員の皆様から参加いただきありがとうございました。集場所や時間、バスの乗降等に関して様々な面でご不便をおかけしましたにもかかわらず、最後までご協力をいただき、ありがとうございました。

また、来年度は、県PTA連合会設立七十周年を迎え、記念式典の開催、記念誌の発刊、記念研修大会等を計画しております。これらについてもご支援、ご協力よろしくお願いたします。

なお、来年度の東北大会は（九月十五〜十六日）秋田市に於いて、全国大会は（八月二十四〜二十五日）新潟県内において開催される予定です。日程調整の上、たくさんの方の参加が得られま

すよう準備方よろしくお願

いたします。

